

えびの市埋蔵文化財調査報告書 第21集

い　なり　した
稻荷下遺跡

九州電力(株)特別高圧送電線鉄塔建替に伴う埋蔵文化財調査報告書



1997

えびの市教育委員会

えびの市埋蔵文化財調査報告書 第21集

い　なり　した
稻荷下遺跡

九州電力(株)特別高圧送電線鉄塔建替に伴う埋蔵文化財調査報告書

1997

えびの市教育委員会



航空写真

序 文

宮崎県の西端部に位置するえびの市は、日向・肥後・薩摩の分岐点にあたり、北に九州山地、南に霧島山系に囲まれた狭長な盆地であります。また、その豊富な湧水の恩恵を受けて、段丘上には多くの文化的足跡が記されております。

本書は、九州電力㈱特別高圧送電線鉄塔建替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書であります。調査の結果、室町時代から江戸時代にかけての道路跡が確認され、貴重な資料を得ることができました。また、調査地周辺では、飯野城と加久藤城を結ぶ道路があったという伝承があり、今回それが証明されました。

これらの資料から、郷土史がなお一層解明され、また本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や社会教育の場で活用され、文化財保護に対する理解と認識が深まれば幸いです。

なお、発掘調査から本書の刊行に至るまで、御理解と御協力を賜りました九州電力㈱宮崎支店、九州電力送変電立地業務委託会社森林都市㈱宮崎営業所、ならびに発掘作業に従事していただいた方々に対しまして厚く御礼申し上げます。

平成9年3月

えびの市教育委員会

教育長 平田郁郎

例　　言

1. 本書は、平成9年度に実施した九州電力㈱特別高压送電線鉄塔替工事に伴う稻荷下遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は、えびの市教育委員会が主体となり、平成9年2月24日から3月6日まで実施した。
3. 遺構および遺物の写真撮影は、東が行なった。
4. 出土遺物の実測および製図は、東のほか、入来和代、川上茂子、坂元星奈、木元美紀子が行なった。
5. 本書の編集・執筆は東が行なった。
6. 調査の関連資料および出土遺物は、えびの市歴史民俗資料館に保管している。

調　　査　組　織

調査主体 えびの市教育委員会

教育長 平田郁郎

社会教育課長 藤嶋 勉

課長補佐 赤崎 正史

係長 木村 政一

主事 常増 祐子

技師 中野 和浩

嘱託 東 真一

調査協力 九州電力株式会社 宮崎支店

九州電力送変電立地業務委託会社 森林都市株式会社

特別調査員 大橋康二(佐賀県立九州陶磁文化館学芸課長)

発掘作業員 今村ヒトエ 大内田春江 加治佐良子 上水流百合子 里岡カズ子

新屋敷綾子 新屋敷節子 杉水流恵子 園田菊野 出水一美 永田美智子

萩原ケイ子 西脇ミキ 原口キミコ 外屋ミチコ 星指利江子 本坊福子

山口ミツ

遺構実測 加治佐良子 新屋敷綾子 新屋敷節子 西脇ミキ 星指利江子

本文目次

第Ⅰ章 はじめに.....	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境.....	2
第Ⅲ章 調査の成果.....	5
第Ⅳ章まとめ.....	9

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡分布図.....	1
第2図 調査区位置図.....	2
第3図 道路跡遺構実測図.....	3～4
第4図 土層断面図.....	3～4
第5図 遺物実測図.....	6
第6図 道路想定図.....	7～8

表目次

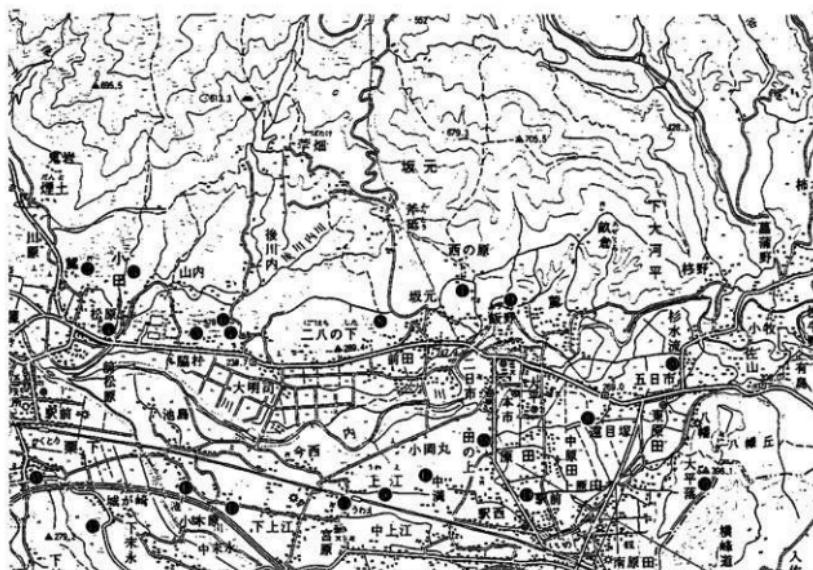
表1 道路出土遺物観察表.....	6
-------------------	---

図版目次

図版1 調査区俯瞰.....	13
図版2 調査区 全景.....	14
図版3 表土削 発掘作業風景.....	15
図版4 道路土層断面（遠） 道路土層断面（接）.....	16
図版5 側溝断面 道路完掘.....	17
図版6 出土遺物.....	18

第Ⅰ章 はじめに

平成8年11月、九州電力株式会社宮崎支店から大淀人吉線の特別高圧送電線鉄塔の建替に伴う工事予定地の文化財の有無について照会を受けた。当該地は周知の遺跡であり、また周辺の市民の間では、この付近に室町時代から江戸時代初期にかけて飯野城と加久藤城を結ぶ道があったとの伝承があったため、同年12月上旬に試掘調査を行なったところ、道路跡と思われる溝状の落ち込みが確認された。その後、九州電力とえびの市教育委員会との間で文化財保護に関する協議を重ね、現状保存は困難であることから記録保存の措置を取ることとなった。平成9年2月14日に九州電力株式会社とえびの市教育委員会との間で委託契約が締結され、発掘調査を行なった。



- 1：稻荷下遺跡 2：加久藤城跡 3：新城跡 4：小城跡 5：小城跡 6：掃部城跡 7：宮之城跡
8：芋畑地下式横穴墓群 9：飯野城跡 10：杉水流地下式横穴墓群 11：稻荷城跡 12：田畠城跡 13：鳥越城跡
14：小木原地下式横穴墓群 15：法光寺跡 16：上江城跡 17：古城跡 18：田之上城跡
19：建山地下式横穴墓群 20：速目塚地下式横穴墓群 21：八幡丘遺跡

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡分布図 (1 : 50,000)

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

稻荷下遺跡は、えびの市大字坂元字稻荷下・宮田に所在する。

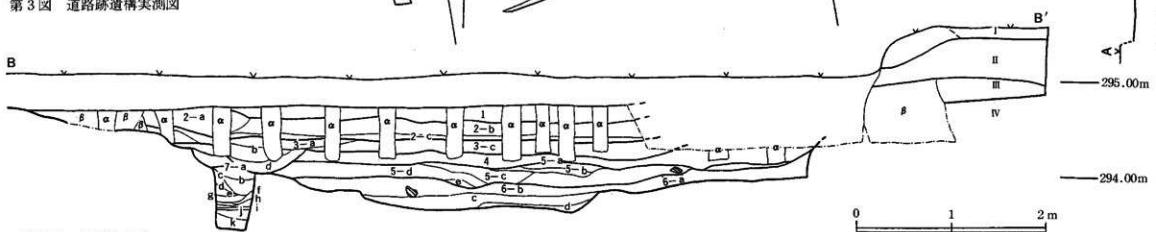
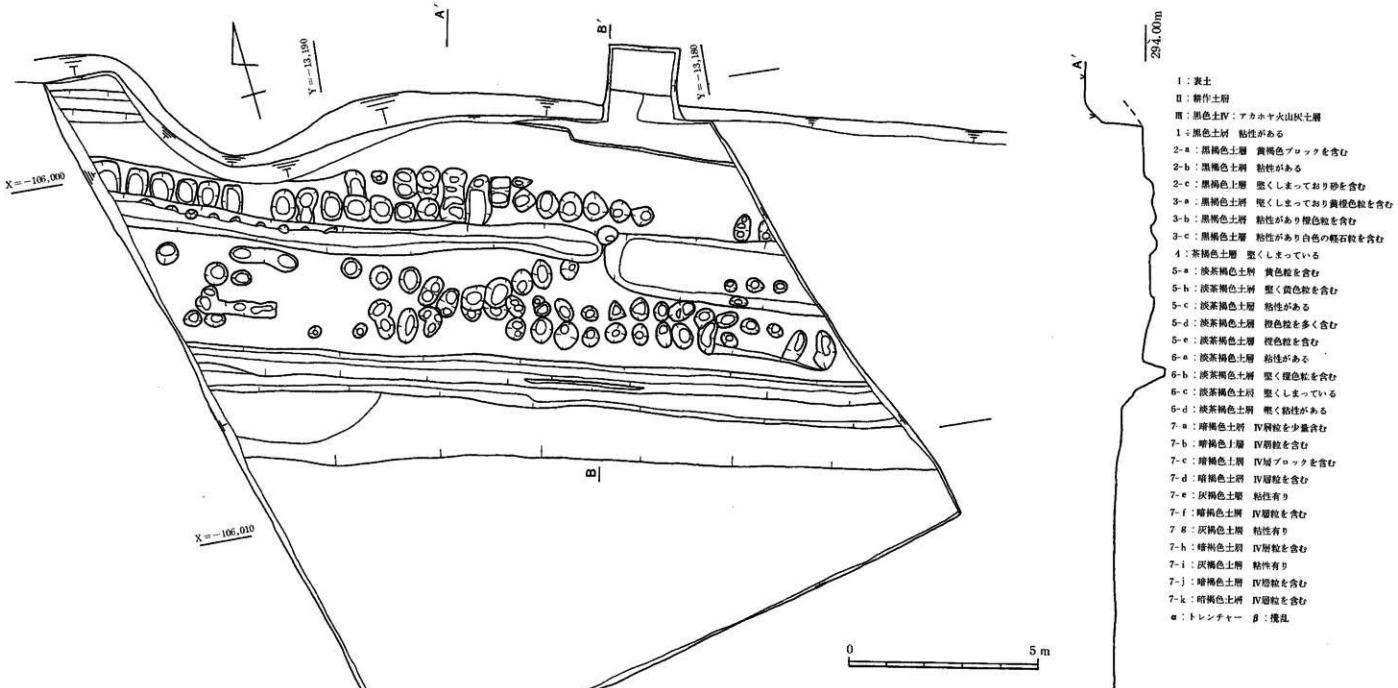
加久藤盆地は、第三紀の中頃に九州山地が佐敷・人吉・小林・青島を結ぶ線から分裂、陥没地となり、第四紀の中頃に加久藤火碎流が発生した後、この地域は湖となった。その後、川内川の侵食により河段段丘が形成され現在に至っている。

本遺跡は川内川の右岸に位置し、標高 290m から 300m の高位段丘上に位置している。周辺には縄文時代から中世の遺跡が数多く存在する。過去、本遺跡は 2 回調査されており、その調査では掘立柱建物 1 棟、数多くの柱穴が検出されている。また、西に位置する広畠遺跡では、堅穴式住居 1 基、地下式板石積石室墓 5 基、地下式横穴墓 19 基が発掘調査によって検出されている。

中世の時期は、日向では伊東氏と島津氏の両勢力が台頭し、激しく争っていたが、1572 年の木崎原の戦いにおいて勝利した島津氏が、伊東氏に代わって日向を支配した。えびの市には、山城跡が現在 34ヶ所確認されている。本遺跡の東約 1km に位置する飯野城は、亀城または鶴亀城とも言われ、城郭は本丸約 4600m²、二の丸約 6500m²である。城の南面は川内川に面しており、断崖である。永暦元年（1160）日下部重貞は真幸院司に就任した際、飯野城を築き、日下部氏歴代の居城としたが、七代で没落し、康永 4 年（1345）北原兼幸が真幸院司に就任し北原氏歴代の居城としたが、永祿 5 年（1562）北原氏が滅び、永祿 7 年（1564）島津義弘の居城となった。また、本遺跡の西約 2.5km には宮之城、掃部城、小城、さらに谷を隔てた台地上には加久藤城が位置している。加久藤城は、応永年間（1394～1528）北原氏の居城で久藤城といったが、永祿 7 年、真幸院の領主となった島津義弘が改修築し加久藤城と改名し、夫人廣瀬氏を置いた。肥後街道・球磨問道を押さえる要衝の地にある。



第2図 調査区位置図 (1 : 5,000)



第Ⅲ章 調査の成果

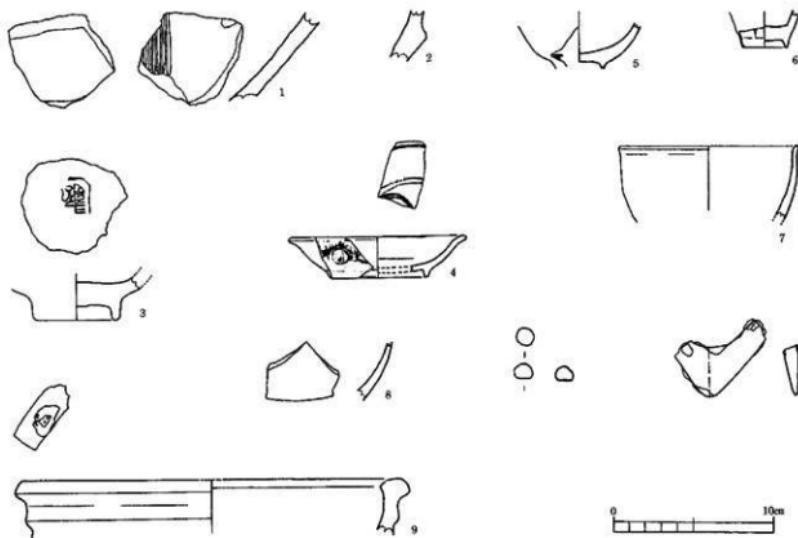
調査区北半分で現地表面より40cm下で東西に延びる道路跡が検出された。北側の路肩は擾乱による削平を受けているが、上面幅は推定9.8mである。道路は路面幅5.8m、検出面からの深さ1.08mを測り、南側に幅40cm深さ58cmの側溝を持つ。以下に層序を述べる。

1層は黒色土層で粘性がある。2層は黒褐色土層で3つに細分でき、a 黄褐色ブロックを含んでいる、b 粘性があり、c 壓くしまっており砂を含む。3層は黒褐色土層で3つに細分でき、a 壓くしまっており黄橙色粒を含む、b 粘性があり橙色粒を含む、c 粘性があり白色の軽石粒を含む。4層は茶褐色土層で堅く粘性がある。5層は淡茶褐色土層で5つに細分でき、a 黄色粒を含む、b 壓く黄色粒を含む、c 粘性がある、d 橙色粒を多く含む、e 橙色粒を含む。6層は淡茶褐色土層で4つに細分でき、a 粘性がある、b 壓く橙色粒を含む、c 壓くしまっている、d 壓く粘性がある。

埋土の堆積状況から2層と3層（5期）、3層と4層（4期）、5層と6層（3期）の境に硬化面が確認された。

初期と2期は同一面であり、路面は緩やかに落ち込み、断面は逆レンズ状を呈する。2期では道路中央に幅60cm、深さ15cmの溝によって2分され、路面幅は北側で2.4m、南側で2.6mを測る。6層から15～16世紀の磁器が出土しており、16世紀頃の道路と思われる。3期は側溝が掘削されないが、路面は平坦で、長さ30～70cm、幅40～50cm、深さ20cm前後の円形の穴が連続している。路面幅は6.04mを測る。5層から16世紀後半～17世紀の磁器が出土していることから17世紀頃の道路と思われる。4・5期は、路面は平坦で、北側が不明であるが、4期は南側に幅90cm、深さ25cmの側溝が施され、路面幅は推定3.94mで、5期は側溝が掘削されず、路面幅は推定5.9mである。3層から17～18世紀の磁器が出土し、2層から上層では19世紀以降の磁器が出土していることから、4期は18世紀頃、5期は19世紀頃の道路と思われる。

出土遺物としては、土師質土器のほか、同産陶磁器と輸入陶磁器と鉄器である。いずれも小片であるが、陶磁器類については表1にその内訳を記している。鉄器は鋤の先端部で最大幅5.8cm、断面は三角形を呈する。また、6層最下面付近で鉛玉が出土している。



第5図 遺物実測図

表1 道路出土遺物観察表

遺物番号	種類・器種	法量(cm)			色・病			調査・技法・文様	時期
		口径	底径	器高	釉色	露胎	胎上		
1	備前 播鉢	—	—	—					15世紀末～16世紀
2	備前 播鉢	—	—	—					15世紀末～16世紀
3	龍泉窯 青磁碗	—	—	—				劍先蓮弁文 見込 順氏	15世紀中～末
4	景德鎮 皿	10.8		2.5				蓬唐草文	15世紀末～16世紀前
5	肥前 碗	—	—	—				コンニャク印版	18世紀前
6	肥前 染付小杯	—	—	—					17世紀後～18世紀前
7	肥前 碗	11	—	—					17世紀末～18世紀前
8	薩摩か 碗	—	—	—					17世紀末～18世紀
9	薩摩 甕	21	—	—				貝目	17世紀前～中
	景德鎮	—	—	—				被熱	16世紀末～17世紀前
	肥前 染付碗	—	—	—					18世紀前～中
	肥前 染付皿	—	—	—					18世紀前頃
	肥前 染付碗	—	—	—					19世紀初



第6図 遺跡想定図

第IV章　まとめ

今回の発掘調査では、伝承を裏付ける道路跡が検出された。その層序の観察から3つの硬化面が認められること、また出土遺物から16世紀から19世紀まで比較的長い間使用されていたことも判明した。

当道路の想定をするために周辺地形を見てみると、調査地付近は幅10m前後の畠が東西に延びて残っており、北西には一段低い田畠が存在している。これら周辺地形の特徴から第6図のように想定できる。また、この道路は

『木崎原軍記』

義弘公出^レ於城中^レ過^レ西之原口^レ又大明司山東^レ号^レ上別府坂^レ又曰^レ二八坂^レ且在^レ斯所^レ望見^レ敵軍^レ已引^レ退^レ…

『木崎原合戦記』

御城本丸の後より新城江^レ続き多^レ示本通与ハ見渡ざる^レ路あ里是を御通り^レて加久藤城後ろ遠目塚まで越せる…

〔野谷筋〕

と二つの書物に記されている道路にあたり、島津藩作成の『飯野他領境並内場境麓廻縄引帳』(1698年)の道路とも一致し、19世紀までの約300年間、埋没しつつも機能していたことが明らかになった。

参考文献

『木崎原軍記』 1691年

『木崎原合戦記』 1817年

『飯野他領並内場境麓廻縄引帳』 1698年

写 真 図 版



調査区 情報
(西北)

図版2



調査区 全景（西側）

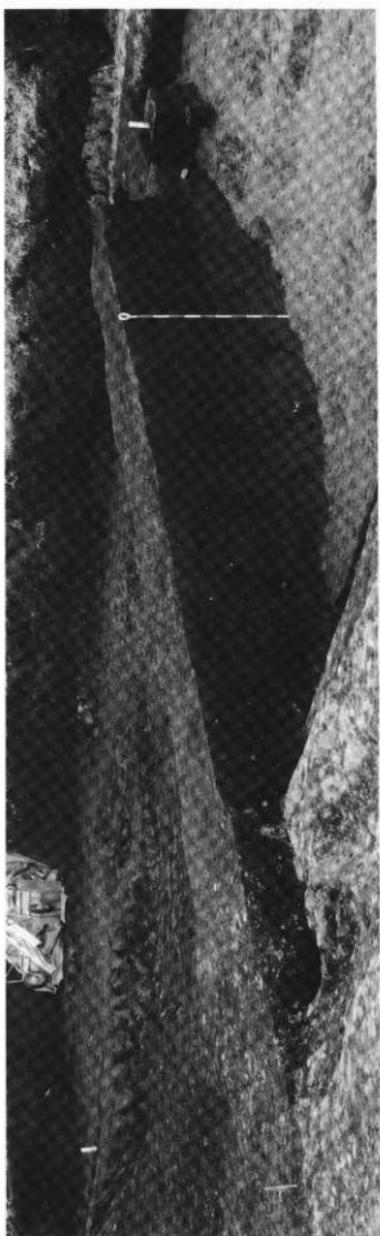


表土削ぎ

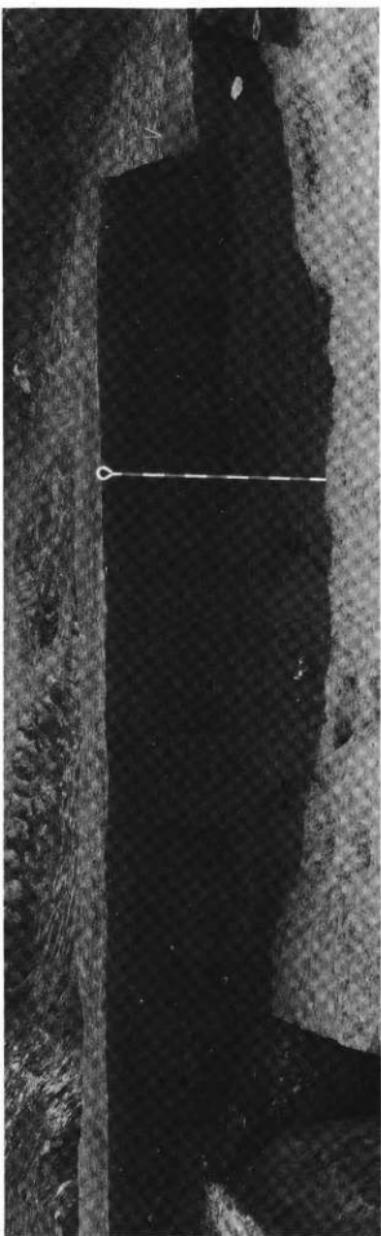


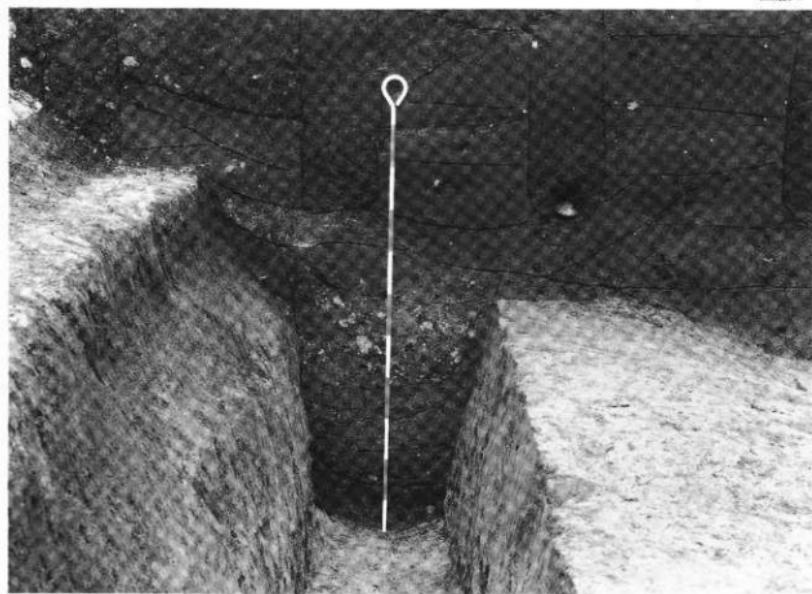
発掘作業風景

道路土层断面 (进)



道路土层断面 (接)



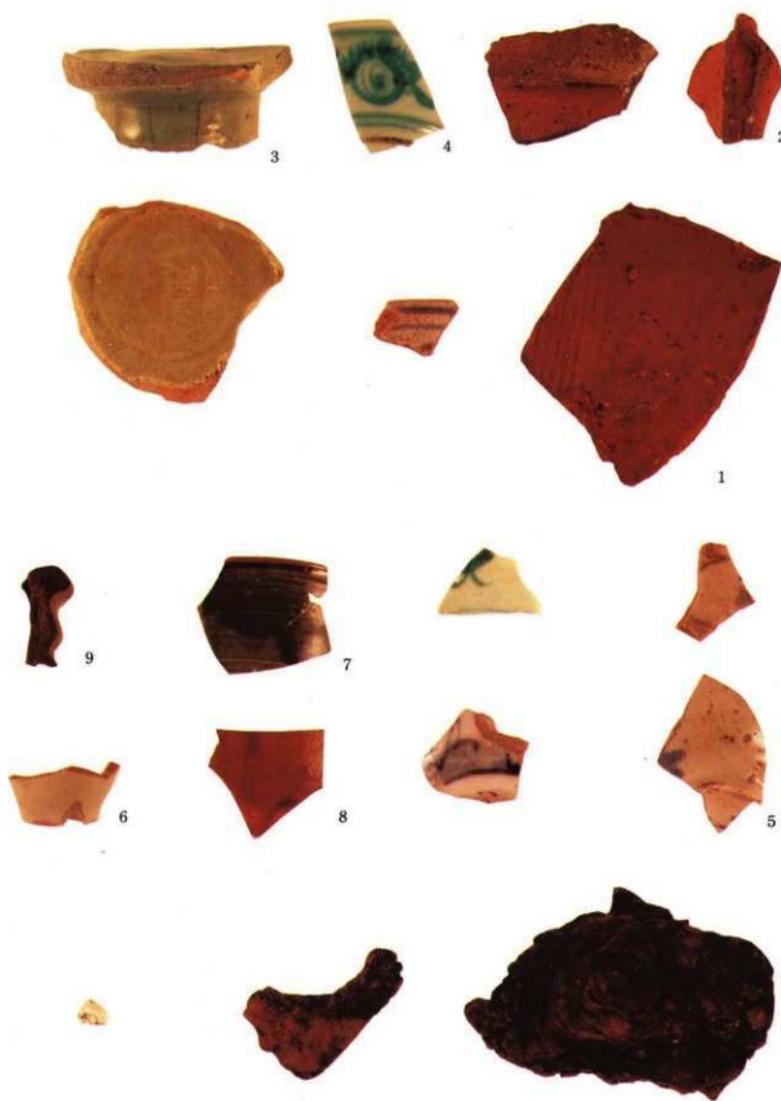


側溝断面



道路完掘

图版6



出土遗物

報告書抄録

フリガナ	イナリシタ
書名	稲荷下遺跡
シリーズ名	えびの市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第21集
編集者	東 真一
発行機関	えびの市教育委員会
所在地	えびの市大字大明司2146-2
発行年月日	平成9年3月

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
イナリシタ 稲荷下遺跡	えびの市 大字坂元 字稲荷下			1997/2/24 ～ 1997/3/6	133m ²	特別高圧送 電線建替
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
散布地	中世	道路	陶磁器・鉄器・ 鉛玉			

えびの市埋蔵文化財調査報告書 第21集

稻荷下遺跡

九州電力(株)特別高圧送電線建替に伴う
埋蔵文化財調査報告書

平成9年3月

編集・発行 えびの市教育委員会
えびの市大字大町2146-2

印 刷 え び の 印 刷
えびの市大字栗下98-1